

企画名：「タネ」が生み出す地域の未来③～基盤構築を通じた各地域の交流と活動促進～

団体名：特定非営利活動法人ホールアース研究所

1. 報告要旨

本プロジェクトの開始以来一貫して、「グローバル化・規格化によるタネの地域固有性や多様性の喪失」を課題として捉え、その解決方法の一つを「タネの社会化（一人ひとりが食や農作物、タネに対して興味や関心が高まっている状態）」と位置付けて、プロジェクトを実施してきた。2018年度の富士山麓での4地域オフライン交流会、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた検討期間後の2021年度のプロセス的オンライン勉強会を経て、2022年度は、「①タネの社会化に向けた基盤整備についてキーパーソンたちが主体的に実践し、トライアンドエラーの中でプロトタイプを作成する」「②そのプロセスを発信する中で多様な専門家や関心層を巻き込み、社会化に向けた関係性や体制が整っている状態となる」という目標を掲げ、日本地域を軸としたプロトタイプの作成と、それをベースとした4地域での意見交換を重ねてきた。目標①については、基盤としてのHPのワイヤーフレーム案が出来上がったと共に、日本対各地域のオンラインMTGの中で様々な意見が出され、4地域で利用していくための共通認識が整いつつある。また目標②については、前述した日本対各地域のオンラインMTGやinstagramでの定期的な発信により、各地域で5-10名程度の関心層を巻き込むことができた。実際のHPを構築することがゴールだとすれば、それまでの課題や作成すべき項目は少なくないが、各地域で改めて共通基盤の必要性を確認できたこと、またその理解の上に様々なアイデアが出てきたこと、そしてその作成のために各地域で予想を超えた関心層が集ってきたことは、2つの目標にまたがる大きな成果なのではないかと考える。新型コロナウイルス感染症に対する社会的な捉え方が変わってきたものの、これまで築いてきたオンラインでのノウハウや成果物と、第一回で実施したり第二回で予定していた台湾視察のようなオフラインをハイブリッドに利活用しながら、引き続き多様な人材を巻き込み、「タネの社会化」に向けた具体策の可能性を引き続き検討していきたい。

2. 成果物

1. HP用ワイヤーフレーム (miro)
2. [プロセス発信用 SNS](#) (Instagram)
3. 各地域打ち合わせ動画 (YouTube) ①[日本チーム](#) ②[中国・台湾チーム](#) ③[韓国チーム](#)
4. 事務局進捗共有アーカイブ (miro)
5. 韓国：[danさん資料](#) (日本語訳付き)
6. 台湾：[Linさん資料](#) (日本語訳付き)
7. 中国：[Layingさん資料](#) (日本語訳付き)